

4. 経営者視点のスキル・教養の習得

勤務医が将来の独立開業や、病院・診療所における組織運営に関わる立場を見据える場合、医師としての診療技術に加え、経営者としての視点や基礎的な教養を身につけておくことが重要です。

① 体系的な学習・セミナーや勉強会への参加

- 協会主催の「開業実現セミナー」「医院経営研究会」などを受講する。
- 開業支援サイトの活用：m3.com や日経メディカルなどが主催する「開業セミナー」では、集患、経営戦略、最新トレンドなどを学べます。
- 医療経営に関する知識を学ぶ手段として、医療経営士資格や社会人向け経営大学院（MBA）などもあります。

② 開業コンサルタントへの相談

- コンサルタントの関与は有効な場合もありますが、提供内容や費用体系は事業者ごとに大きく異なります。複数の情報源を比較し、必要性を慎重に判断する姿勢が求められます。

※協会独自でも開業相談を受け付けています。

③ 財務・税務の専門家への相談

- 医療特化型税理士：開業後のキャッシュフローや節税対策、創業融資の相談には、医療業界に強い税理士や独立系FPとの連携が推奨されます。

④ 人的ネットワークの構築

- 先輩開業医へのヒアリング：地域の医師会や、セミナーで知り合った先輩医師をメンター（助言者）として持つことで、実体験に基づいた失敗談や成功の秘訣を聞けます。

⑤ 「経営者視点」の代表的な実務スキル

- 財務管理：損益計算書の見方や、診療報酬の仕組み（2026年改定内容など）を理解する。
- 人材マネジメント：チーム医療を円滑に進めるためのリーダーシップやコミュニケーション能力を磨く。
- 集患・マーケティング：地域の医療ニーズ（医療計画）を把握し、自院の強みをどう打ち出すか考える。

経営者視点の習得は、一朝一夕で身につくものではありません。勤務医の段階から少しずつ知識や人的ネットワークを蓄積し、自身のキャリアや地域医療のあり方を考える材料としていくことが重要です。